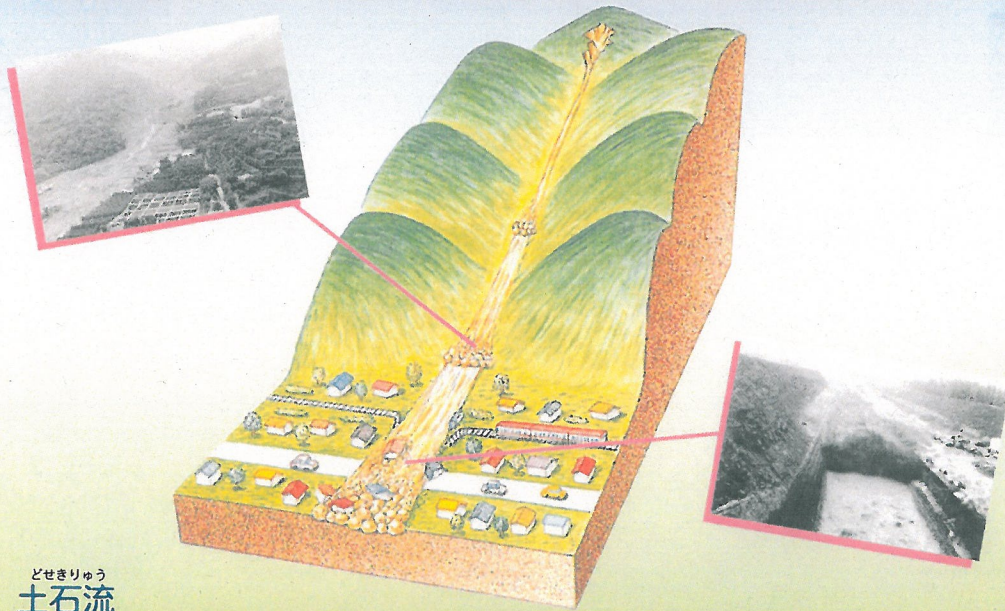


さほう なに 砂防って何？

土砂災害からみんなの暮らしを守るのが砂防の仕事です。大雨が降って山や崖が崩れたり、水と混じりあった土や石が私たちにおそいかかってくるのが土砂災害です。土砂災害は、家や田畑や道路を壊し、人の命まで奪ってしまうおそろしい災害です。この土砂災害をふせぎ、人の命と家や田畑などの財産を守るのが砂防の仕事です。

砂防堰堤を造る。川の流れをなおす。荒れた山に木を植える。崖が崩れないよう工事をする。これらはみんな、土砂災害が起きないようにするための砂防の仕事です。

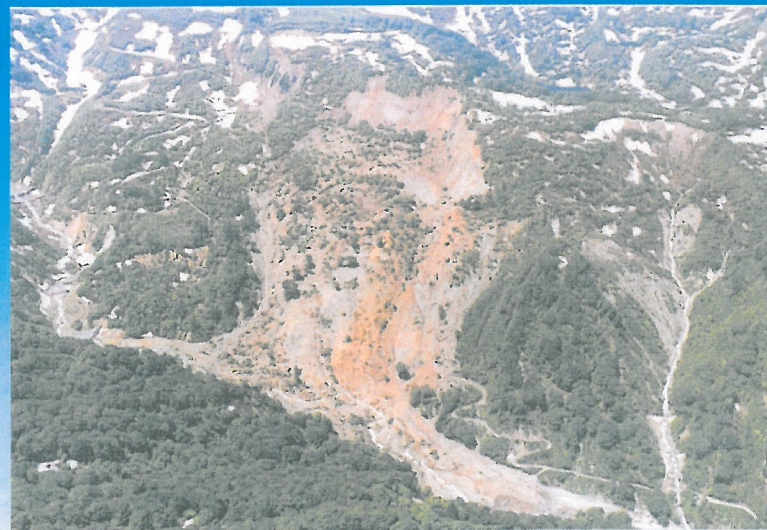
どしゃさいがい なに 土砂災害って何？



どせきりゅう 土石流

谷や山の斜面にたまった土・石・砂などが、梅雨の長雨や台風の大雨などによる水といっしょになって、ものすごい勢いで低いほうへ押し流されるものを土石流（どせきりゅう）といいます。流れの速さは時速20キロメートルから40キロメートルくらいのもが多く、自動車と同じくらいのスピードだといえるでしょう。土石流（どせきりゅう）は、象の何倍もあるような大きな岩を押し流すほど強い力をもつこともあり、家や田畑を押し流してしまいます。

急な流れの谷川があるところや、扇のような形をしていることから「扇状地」とよばれる谷の出口では、土石流（どせきりゅう）による災害が起りやすくなります。また、火山灰が土石流（どせきりゅう）を引き起こすこともあります。土石流（どせきりゅう）はスピードが速く、力も強いので、人が死んだりするような大きな災害になることが多いのです。

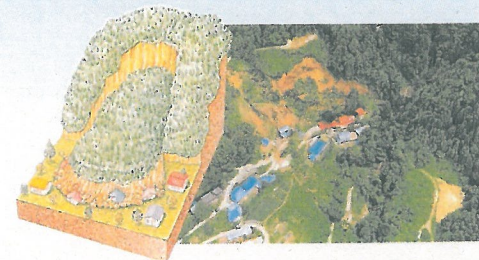


にごりさわ 濁沢の 大規模 崩壊地

平成5年6月5日未明、濁沢第3堰堤上流約1km付近左岸部に幅約350m、崩壊地土砂量576万m³の大規模な地すべりが発生。直接被害はなかったものの、施工中であった濁沢第5堰堤をはじめ、下流の砂防堰堤を濁し、川をせき止めて洪水等を引き起こすことがあります。

地すべり

比較的緩やかな斜面において、地中の粘土層など滑りやすい面が地下水の影響などで、ゆっくり動き出す現象です。一度に広い範囲が動くため、ひとたび発生すると住宅、道路、鉄道、耕地などに大きな被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水等を引き起こすことがあります。



がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのががけ崩れです。突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。また、地震をきっかけに起こることもあります。



かせん どしゃりゅうしゅつ 河川への土砂流出

山が崩れて流れ出した土砂などが、谷に堆積した天然のダムを造り、土石流などを引き起こすことがあります。また、河川に流れ出した土砂が川岸や川底を削り取ったり、下流部の川底に堆積したりして、洪水を起す原因にもなります。

